事業シート１０				作成：	令和8　年　　7 月
取組テーマ	つなぐ	地域をつなぐ交通環境の向上		事業区分	継続
事業名	自転車を活用した観光の推進	事業期間	～令和７年度	所管	都市局交通政策部 自転車まちづくり推進課 建設局土木部 道路環境課

事業概要：

地域の商業施設と連携し、サイクリング中に休憩で立ち寄ることができる施設を認定します。また、新たな都市交通システムとしてのシェアサイクルの利用促進・エリア拡大及びシェアサイクルを活用した観光を推進します。

図・イメージ

事業目標及び事業方針

・シェアサイクルの利用促進及びエリア拡大、サイクルサポート施設の募集を継続的に実施し、自転車を活用した賑わいのあるまちづくりを目指します。

事業計画（工程表）

	R3	R4	R5	R6	R7
取組内容 目標値	・シェアサイクルの利用促進及びエリア拡大 ・サイクルサポート施設の認定・設置	・シェアサイクルの利用促進及びエリア拡大 ・サイクルサポート施設の認定・設置	・シェアサイクルの利用促進及びエリア拡大 ・サイクルサポート施設の認定・設置	・シェアサイクルの利用促進及びエリア拡大 ・サイクルサポート施設の認定・設置	・シェアサイクルの利用促進及びエリア拡大 ・サイクルサポート施設の認定・設置
取組実績	・シェアサイクル普及のため市内ポートの新設を進めました。（公有地等ポート新設19件） ・サイクルサポート施設を新たに11箇所認定しました。	・シェアサイクル普及のため市内ポートの新設を進めました。（公有地等ポート新設7件） ・サイクルサポート施設を新たに７箇所認定しました。	・シェアサイクル普及のため市内ポートの新設を進めました。（公有地等ポート新設１１件） ・サイクルサポート施設を新たに６箇所認定しました。	・シェアサイクル普及のため市内ポートの新設を進めました。（公有地等ポート新設10件） ・サイクルサポート施設を新たに３箇所認定しました。	・シェアサイクル普及のため市内ポートの新設を進めました。（公有地等ポート新設５件） ・サイクルサポート施設を新たに３箇所認定しました。
実績評価	B	B	B	B	B
実績評価の理由	・シェアサイクルポート新設により、シェアサイクル普及促進の目標を概ね達成しました。 ・サイクルサポート施設の新たに11箇所認定し、目標を達成しました。	・シェアサイクルポート新設により、シェアサイクル普及促進の目標を概ね達成しました。 ・サイクルサポート施設の新たに７箇所認定し、目標を達成しました。	・シェアサイクルポート新設により、シェアサイクル普及促進の目標を概ね達成しました。 ・サイクルサポート施設の新たに６箇所認定し、目標を達成しました。	・シェアサイクルポート新設により、シェアサイクル普及促進の目標を概ね達成しました。 ・サイクルサポート施設を新たに３箇所認定し、目標を達成しました。	・シェアサイクルポート新設により、シェアサイクル普及促進の目標を概ね達成しました。 ・サイクルサポート施設を新たに３箇所認定し、目標を達成しました。

事業シート１１				作成：	令和8 年 7 月
取組テーマ	つなぐ	地域をつなぐ交通環境の向上		事業区分	継続
事業名	自転車ネットワークの整備推進	事業期間	～令和７年度	所管	都市局交通政策部 自転車まちづくり推進課 建設局土木部 道路環境課

事業概要：

安全で快適な自転車通行環境を効果的、効率的に整備するため、自転車の利用が多い道路や施設を考慮し、具体的な路線の選定、整備形態及びスケジュールをまとめた「自転車ネットワーク整備計画」に基づき、自転車通行環境の整備を推進します。

図・イメージ

事業目標及び事業方針

・第２期計画期間に引続き整備を推進し、令和７年度までに市内全体で約２４５ｋｍの自転車通行環境整備を実施します。整備は自転車利用者の多い駅周辺の路線のほか、自転車通行環境整備済み路線との連続性が確保できる路線等を優先的に進めながら、広域的ネットワークを構築します。

事業計画（工程表）

	R3	R4	R5	R6	R7
取組内容 目標値	さいたま市自転車ネットワーク整備計画改定の検討 自転車通行環境整備20km（総延長180km）	さいたま市自転車ネットワーク整備計画改定の検討 自転車通行環境整備20km（総延長２００km）	さいたま市自転車ネットワーク整備計画の改定 自転車通行環境整備１５km（総延長２１５km）	自転車通行環境整備１５km（総延長２３０km）	自転車通行環境整備１５km（総延長２４５km）
取組実績	さいたま市自転車ネットワーク整備計画の改定に先立ち、現計画による自転車通行環境整備の効果等を検証し、中間とりまとめを行い、関係者と共有しました。 自転車通行環境整備については、23km（総延長178km）の整備を実施しました。	次期計画において計画通りに整備が進められるよう、道路幅員が狭い等の理由から警察協議が整わない路線を減らすため、試験施工を実施しました。（効果検証は令和5年度第一四半期予定） 自転車通行環境整備については、19km（総延長197km）の整備を実施しました。	交通管理者等との調整に時間を要し、計画の改定まではいたらなかったが、次期計画の自転車ネットワーク路線選定の方向性について関係者と概ね合意が図れました。 自転車通行環境整備については、19km（総延長216km）の整備を実施しました。	さいたま市自転車ネットワーク整備計画を改定しました。 自転車通行環境整備については、16km（総延長232km）の整備を実施しました。	自転車通行環境整備については、15km（総延長247km）の整備を実施しました。
実績評価	B	B	B	B	B
実績評価の理由	計画的に効果検証を実施。次年度以降計画どおりに整備を進められるよう、検証結果に基づき、整備が進んでいない路線等の今後の方針を関係者と共有できたため。 自転車通行環境整備については、一部路線において年度内に完了することができず、翌年度に繰越となったため。	令和5年度の計画改定に反映できるスケジュールで、試験施工及び効果検証を進められているため。 自転車通行環境整備については、一部路線において年度内に完了することができず、翌年度に繰越となったため。	計画の改定については目標まで達していないが、自転車通行環境整備については、目標を上回った延長を整備したため、全体の実績評価はBとした。	計画の改定については目標から１年遅れての改定になったが、自転車通行環境整備については目標を上回った延長を整備したため、全体の実績評価はBとした。	自転車通行環境整備について、目標値の延長を整備したため、実績評価はBとした。

事業シート１２				作成：	令和8　年　　7 月
取組テーマ	つなぐ	地域をつなぐ交通環境の向上		事業区分	継続
事業名	岩槻中央通り線整備事業	事業期間	～令和９年度	所管	建設局土木部 道路計画課 道路環境課

事業概要：

地域間の連携強化のため整備します。

（さいたま市岩槻区加倉１丁目、４丁目、
本町１丁目及び２丁目地内）

図・イメージ

事業目標及び事業方針

【岩槻駅入口交差点より南西に550mの区間】
・電線共同溝整備事業、歩道整備事業に取り組み、令和5年度までに整備区間の無電柱化を目指します。
・また、事業完了に向けて、課題となっている未買収地の取得について取り組み、電線共同溝整備、歩道整備、車道整備工事を実施していきます。
【加倉北交差点より北東に520mの区間】
・電線共同溝整備事業、歩道整備事業に取り組み、令和９年度までに整備区間の歩道整備、無電柱化を目指します。
・事業に必要な用地を取得し、電線共同溝整備、歩道整備、車道整備工事を実施していきます。

事業計画（工程表）

	R3	R4	R5	R6	R7
取組内容 目標値	・電線共同溝整備工事 ・街渠整備工事 ・用地買収 ・歩道整備工事	・用地買収 ・電線共同溝整備工事 ・歩道整備工事	・歩道整備工事 ・車道整備工事 ・用地買収 ・電線共同溝整備工事	・電線共同溝整備工事	・歩道整備工事
取組実績	【岩槻駅入口交差点より南西に550mの区間】 ・電線共同溝整備工事、街渠整備工事を発注しました。 ・一部区間の電線、電柱を撤去しました。 【加倉北交差点より北東に520mの区間】 ・用地買収の推進及び歩道整備工事の実施、電線共同溝整備工事を発注しました。	【岩槻駅入口交差点より南西に550mの区間】 ・用地交渉を進めました。 ・車道舗装工事、歩道舗装工事を発注しました。 【加倉北交差点より北東に520mの区間】 ・用地買収の推進及び電線共同溝整備工事を実施しました。	【岩槻駅入口交差点より南西に550mの区間】 ・道路照明工事を発注しました。 【加倉北交差点より北東に520mの区間】 ・用地買収の推進及び電線共同溝整備工事を実施しました。	【岩槻駅入口交差点より南西に550mの区間】 ・無電柱化を推進するため、電線共同溝引込管委託を実施しました。 【加倉北交差点より北東に520mの区間】 ・用地買収の推進及び歩道整備工事を実施しました。	【岩槻駅入口交差点より南西に550mの区間】 ・無電柱化を推進するため、電線共同溝引込管委託を実施しました。 【加倉北交差点より北東に520mの区間】 ・用地買収の推進及び歩道整備工事を実施しました。
実績評価	B	B	B	B	B
実績評価の理由	【岩槻駅入口交差点より南西に550mの区間】 ・当初の目標の通り、電線共同溝整備工事、街渠整備工事を発注し、道路整備に伴う地域間の連携の強化に寄与したことから、上記評価としました。 【加倉北交差点より北東に520mの区間】 ・当初の目標の通り、用地買収の推進及び歩道整備工事の実施、電線共同溝整備工事の発注により、道路整備に伴う地域間の連携の強化に寄与したことから、上記評価としました。	【岩槻駅入口交差点より南西に550mの区間】 ・当初の目標では、用地買収を予定しており、用地交渉を進めています。 ・また、車道舗装工事、歩道舗装工事を発注し、道路整備に伴う地域間の連携の強化に寄与したことから、上記評価としました。 【加倉北交差点より北東に520mの区間】 ・当初の目標の通り、用地買収の推進及び電線共同溝整備工事の実施により、道路整備に伴う地域間の連携の強化に寄与したことから、上記評価としました。	【岩槻駅入口交差点より南西に550mの区間】 ・当初の目標では、歩道整備工事や車道整備工事を予定しており、その一環として道路照明工事を発注しました。 ・そのため、道路整備に伴う地域間の連携の強化に寄与したことから、上記評価としました。 【加倉北交差点より北東に520mの区間】 ・当初の目標の通り、用地買収の推進及び電線共同溝整備工事の実施により、道路整備に伴う地域間の連携の強化に寄与したことから、上記評価としました。	【岩槻駅入口交差点より南西に550mの区間】 ・当初の目標では、令和5年度までに整備区間の無電柱化を予定しておりましたが、抜柱に向けた調整に時間を要しており、遅れが生じました。 ・ただ、無電柱化に向けた業務委託は着実に実施しており、道路整備に伴う地域間の連携の強化に寄与したことから、上記評価としました。 【加倉北交差点より北東に520mの区間】 ・用地買収の推進及び歩道整備工事の実施により、道路整備に伴う地域間の連携の強化に寄与したことから、上記評価としました。	【岩槻駅入口交差点より南西に550mの区間】 ・当初の目標では、令和5年度までに整備区間の無電柱化を予定しておりましたが、抜柱に向けた調整に時間を要しており、遅れが生じました。 ・ただ、電線共同溝整備工事は完了し、令和6年度から引き続き、無電柱化に向けた業務委託を着実に実施しており、道路整備に伴う地域間の連携の強化に寄与したことから、上記評価としました。 【加倉北交差点より北東に520mの区間】 ・用地買収の推進及び歩道整備工事の実施により、道路整備に伴う地域間の連携の強化に寄与したことから、上記評価としました。

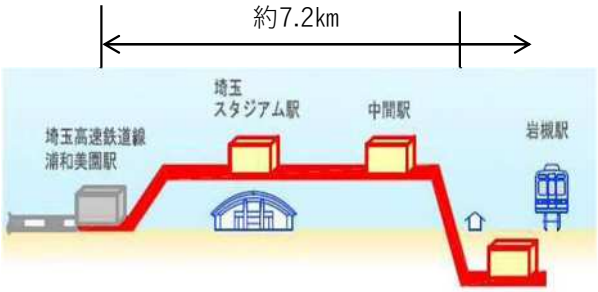
事業シート１３				作成：	令和8　年　７月
取組テーマ	つなぐ	地域をつなぐ交通環境の向上		事業区分	継続

事業名	地下鉄７号線延伸	事業期間	～令和７年度	所管	都市戦略本部 未来都市推進部

事業概要：

地下鉄７号線（埼玉高速鉄道線）は、平成28年の国（交通政策審議会）の第198号答申で、浦和美園～岩槻～蓮田までの延伸が位置付けられており、先行整備区間の浦和美園駅～岩槻駅間で「埼玉スタジアム駅」、「中間駅」（目白大付近）、「岩槻駅」を新設する計画です。

図・イメージ



事業目標及び事業方針

・都市鉄道等利便増進法に基づく鉄道事業者による申請手続の早期実施を目指します。

事業計画（工程表）

	R3	R4	R5	R6	R7
取組内容 目標値	関係自治体との連携会議の開催	速達性向上事業に関する計画素案（案）作成	鉄道事業者へ事業実施要請	技術支援要請に基づく計画の深度化	深度化を進め事業実施要請に向けた協議
取組実績	関係自治体との連携会議を２回実施	速達性向上事業に関する計画素案（案）作成	鉄道事業者へ技術支援要請	技術支援要請に基づく計画の深度化	鉄道事業者へ速達性向上事業の実施を要請
実績評価	B	B	C	B	B
実績評価の理由	都市鉄道等利便増進法に基づく速達性向上事業の実施の要請に向けて、自治体連携会議を設置しました。要請者、費用負担の協議を開始し、計画素案の作成方針について協議しました。	自治体連携会議や、個別協議を踏まえた速達性向上事業に関する計画素案（案）を作成しました。	「鉄道事業者へ事業実施要請」を実施できませんでした。今後は、鉄道事業者から最新かつ専門的な知見の「技術支援」を受けながら、計画の深度化に向けた検討を進め、可能な限り早期に事業実施要請を行います。	埼玉県と共同で、鉄道事業者からの技術支援を受け、計画の深度化を実施しました。	埼玉県と連名で、都市鉄道等利便増進法の規定に基づき、鉄道事業者へ事業実施要請を行いました。

事業シート１４				作成：	令和8　年　　７ 月
取組テーマ	つなぐ	関係人口増加を図る情報発信力の強化		事業区分	継続
事業名	岩槻区の観光ＰＲ	事業期間	～令和７年度	所管	岩槻区役所区民生活部 観光経済室

事業概要：

関係団体や関係所管と連携しながら、岩槻の観光パンフレット等を岩槻区外で配布するなど、岩槻区の観光・イベント等をＰＲします。

図・イメージ

事業目標及び事業方針

・岩槻区の観光PRを実施します。岩槻駅観光案内所や岩槻駅東西自由通路内のガラスケースなどを活用した観光ＰＲを行っていくほか、市外・区外のイベント等に参加し観光ＰＲを行います。

事業計画（工程表）

	R3	R4	R5	R6	R7
取組内容 目標値	岩槻散策マップの配布枚数　8,000枚	岩槻散策マップの配布枚数　8,500枚	岩槻散策マップの配布枚数　9,000枚	岩槻散策マップの配布枚数　9,500枚	岩槻散策マップの配布枚数　10,000枚
取組実績	岩槻散策マップの配布枚数　8,700枚	岩槻散策マップの配布枚数　17,300枚	岩槻散策マップの配布枚数　13,600枚	岩槻散策マップの配布枚数　26,300枚	岩槻散策マップの配布枚数　27,000枚
実績評価	A	A	A	A	A
実績評価の理由	新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言等後に岩槻を訪れる人が増えたため、目標を達成できました。	新型コロナウイルス感染症の行動制限が終わり、岩槻を訪れる人が増えたため、目標を達成できました。	新型コロナウイルスの感染症法上の分類が引き下げられ、岩槻を訪れる人が増えたため、目標を達成できました。	ウェブサイト、SNS等による情報発信を推進したことにより、岩槻を訪れる人が増えたため、目標を達成できました。	ウェブサイト、SNS等による情報発信を推進したことにより、岩槻を訪れる人が増えたため、目標を達成できました。

事業シート１５				作成：	令和8 年 7 月
取組テーマ	つなぐ	関係人口増加を図る情報発信力の強化		事業区分	継続

事業名	観光案内サイン等の整備	事業期間	～令和７年度	所管	岩槻区役所区民生活部 観光経済室

事業概要：

岩槻を訪れる観光客の利便性を向上させ、回遊性を高めるため、岩槻区内の名所・旧跡へ適切に誘導する歩行者系の観光案内サインの整備を行います。

図・イメージ

事業目標及び事業方針

・岩槻区へ来た来訪者の利便性を向上させるため、木製案内サインの整備を行います。

事業計画（工程表）

	R3	R4	R5	R6	R7
取組内容 目標値	・木製案内サインの設置累計　20枚	・木製案内サインの設置累計　40枚	・木製案内サインの設置累計　60枚	・木製案内サインの設置累計　80枚	・木製案内サインの設置累計　100枚
取組実績	・木製案内サインの設置累計　27枚	・木製案内サインの設置累計　52枚	・木製案内サインの設置累計100枚	・木製案内サインの設置累計142枚	・木製案内サインの設置累計156枚
実績評価	A	A	A	A	A
実績評価の理由	慈恩寺地区の木製案内サインについて、予定数より多く設置することができました。今後は、他の地区の整備を引き続き実施します。	柏崎地区の木製案内サインについて、設置することができました。今後は、他の地区の整備を引き続き実施します。	柏崎、大戸・末田地区の木製案内サインについて、設置することができました。今後は他の地区の整備を引き続き実施します。	富士宿・村国地区、河合地区等の木製案内サインについて、設置することができました。今後は他の地区の整備を引き続き実施します。	岩槻・川通・新和・和土地区等の木製案内サインについて、設置することができました。

事業シート１６				作成：	令和8 年 7 月
取組テーマ	つなぐ	関係人口増加を図る情報発信力の強化		事業区分	継続

事業名	岩槻観光案内所運営事業	事業期間	～令和７年度	所管	経済局商工観光部 観光国際課

事業概要：

東武アーバンパークライン岩槻駅東西自由通路内にて岩槻観光案内所を運営します。

図・イメージ

事業目標及び事業方針

・岩槻観光案内所を運営します。イベントや観光情報のパンフレットの配置・対面での観光案内のサービスを行います。

事業計画（工程表）

	R3	R4	R5	R6	R7
取組内容 目標値	岩槻観光案内所運営 観光資源の周知、周遊の促進	岩槻観光案内所運営 観光資源の周知、周遊の促進	岩槻観光案内所運営 観光資源の周知、周遊の促進	岩槻観光案内所運営 観光資源の周知、周遊の促進	岩槻観光案内所運営 観光資源の周知、周遊の促進
取組実績	パンフレットを案内・配布したり、来所者に観光資源を案内することで観光資源の周知・周遊を促進しました。	パンフレットを案内・配布したり、来所者に観光資源を案内することで観光資源の周知・周遊を促進しました。	パンフレットを案内・配布したり、来所者に観光資源を案内することで観光資源の周知・周遊を促進しました。	パンフレットを案内・配布したり、来所者に観光資源を案内することで観光資源の周知・周遊を促進しました。	パンフレットを案内・配布したり、来所者に観光資源を案内することで観光資源の周知・周遊を促進しました。
実績評価	B	B	B	B	B
実績評価の理由	観光資源の周知・周遊を促進したため。今後も観光国際協会と情報を共有し、観光資源の周知のために観光案内所を活用します。	観光資源の周知・周遊を促進したため。今後も観光国際協会と情報を共有し、観光資源の周知のために観光案内所を活用します。	観光資源の周知・周遊を促進したため。今後も観光国際協会と情報を共有し、観光資源の周知のために観光案内所を活用します。	観光資源の周知・周遊を促進したため。今後も観光国際協会と情報を共有し、観光資源の周知のために観光案内所を活用します。	観光資源の周知・周遊を促進したため。今後も観光国際協会と情報を共有し、観光資源の周知のために観光案内所を活用します。

事業シート１７				作成：	令和8　年　　７ 月
取組テーマ	つなぐ	関係人口増加を図る情報発信力の強化		事業区分	新規

事業名	岩槻区ガイドブックの活用	事業期間	～令和７年度	所管	岩槻区区民生活部 コミュニティ課

事業概要：

区民との協働により10年ぶりに改訂を行った岩槻区ガイドブック「来て　見て　魅せる　城下町いわつき」を活用し、区内外の方に岩槻の地域資源を活かした魅力を紹介します。

図・イメージ

事業目標及び事業方針

・豊かな自然と城下町としての歴史、人形文化など岩槻の地域資源を活かした魅力を紹介するガイドブックを市内公共施設に配架し、地域への愛着や誇りの醸成を築くことを目指します。また、イベント等を通して市外の方にも岩槻の魅力を発信します。

事業計画（工程表）

	R3	R4	R5	R6	R7
取組内容 目標値	ガイドブックの配布	ガイドブックの配布	ガイドブックの配布	ガイドブックの配布	ガイドブックの配布
取組実績	区内外の公共施設に配架しました。	区内外の公共施設に配架しました。	区内外の公共施設に配架しました。	区内外の公共施設に配架しました。	区内外の公共施設に配架しました。
実績評価	B	B	B	B	B
実績評価の理由	岩槻区の豊かな自然と城下町としての歴史、人形文化などを区の内外に発信しました。	岩槻区の豊かな自然と城下町としての歴史、人形文化などを区の内外に発信しました。	岩槻区の豊かな自然と城下町としての歴史、人形文化などを区の内外に発信しました。	岩槻区の豊かな自然と城下町としての歴史、人形文化などを区の内外に発信しました。	岩槻区の豊かな自然と城下町としての歴史、人形文化などを区の内外に発信しました。

事業シート１８				作成：	令和8 年 7 月
取組テーマ	つなぐ	関係人口増加を図る情報発信力の強化		事業区分	新規

事業名	岩槻人形博物館管理運営事業	事業期間	～令和７年度	所管	スポーツ文化局文化部 岩槻人形博物館

事業概要：

「人形のまち」として知られる岩槻で、人形文化の振興を図るため、岩槻人形博物館において、人と人形の歴史を調査・研究し、その成果について展示等を通じて広く公開することで、人々の人形への親しみを醸成し、人形文化を未来へと継承することを目的に、人形文化の拠点施設の管理運営を行います。

図・イメージ

事業目標及び事業方針

・展覧会や講演会等を開催し、年間来館者数74,000人を目指します。

事業計画（工程表）

	R3	R4	R5	R6	R7
取組内容 目標値	岩槻人形博物館来館者数 77,000人	岩槻人形博物館来館者数 74,000人	岩槻人形博物館来館者数 74,000人	岩槻人形博物館来館者数 74,000人	岩槻人形博物館来館者数 74,000人
取組実績	岩槻人形博物館来館者数 29,254人	岩槻人形博物館来館者数 32,421人	岩槻人形博物館来館者数 39,656人	岩槻人形博物館来館者数 49,662人	岩槻人形博物館来館者数 35,575人
実績評価	C	C	C	C	C
実績評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、来館者数の制限や地域イベントの中止などから目標を下回りました。 引き続き各事業と連携し、広報・プロモーション活動等の実施により、博物館の認知向上、人形文化の振興を推進します。	新型コロナウイルス感染症の影響により、来館者数の制限や地域イベントの開催縮小などから目標を下回りました。 引き続き各事業と連携し、広報・プロモーション活動等の実施により、博物館の認知向上、人形文化の振興を推進します。	展覧会を年４回実施し、講演会やワークショップ等を開催したこと及び新型コロナウイルス感染症による制限がなくなったことにより来館者数は過去最高となったものの、目標値を下回る結果となりました。引き続き各事業と連携し、博物館の認知向上、人形文化の振興を推進します。	展覧会を年４回実施し、そのなかで、現役人形作家の作品をテーマとした展覧会を実施しました。 71日間で19,369人の方が来館し、年間来館者数は過去最高になったものの、目標値を下回る結果となりました。引き続き、各事業と連携し、博物館の認知向上、人形文化の振興を推進します。	国庫補助金等を活用し、岩槻の人形史をテーマにした初めての展覧会を開催しインバウンド等にも取り組みましたが、目標を達成できませんでした。引き続き、各事業と連携し、博物館の認知向上、人形文化の振興を推進します。